

令和6年度大谷場中学校だより



おおやば

第7号

令和6年10月31日(木)発行

学校教育目標

「より高く、より広く、より深く、より強く」

さいたま市立大谷場中学校

〒336-0016 さいたま市南区大谷場2-13-54

TEL : 048-882-9962 FAX : 048-811-1336

WEB : <https://oyaba-j@saitama-city.ed.jp/>

MAIL : oyaba-j@saitama-city.ed.jp

学校WEBページ
QRコード



「渋沢栄一から学ぶ」

校長 八坂和典

秋だというのに、まだ暑い日が、幾度となく訪れます。寒暖差も激しく、体にも何らかの影響が出てしまいそうですが、たくましい心をしっかりと持って、この気象に立ち向かっていきたいものです。10月は1、2年生の新人体育大会、合唱祭、市の駅伝競走大会、中間テストと生徒はよく取り組んでくれました。市の新人戦ではどの部活動も澁刺と戦い、それぞれが自分たちなりの成果を残してくれました。今大会は県大会への出場権を得た部活動も多く、勝ち負けではありませんが、大谷場中として活躍してくれることを大変うれしく思います。合唱祭では学年合唱、クラス合唱ともにハイレベルで、大変すばらしいハーモニーを響かせ、会場に来た全ての人の心に響く歌声を届けてくれました。特に3年生の合唱はどのクラスも素晴らしく、涙が出るほど感動しました。さいたま市駅伝競走大会では新人戦や合唱祭、学習と大変忙しい中、懸命に練習し、大会当日は仲間の想いのこもった襷を見事につなげ、ゴールしてくれました。結果は自分たちが思うところではなかったようですが、学校の代表として練習に参加し、大会に全力で頑張ってくれた姿は学校の誇りです。

さて、いよいよ、3年生は進路選択が迫られる時期となってきました。3年生に限らず、中学生になると小学校の時に比べ、将来について考えることが増えてきます。生徒の皆さんが将来のことを考える際、社会の大きな変化に触れずには考えられないでしょう。今からおよそ150年前の日本も明治維新という政治や社会の大きな変化がありました。グローバル化、ダイバーシティ(多様性)が進む今日は、明治維新の頃ととても似ています。その頃活躍した人物の一人に渋沢栄一がいます。皆さんも知っている通り、「日本資本主義の父」と呼ばれ、現在も世界で活躍している大企業や銀行の多くを設立した埼玉県出身の実業家です。令和3年のNHK大河ドラマの主人公となり、今年度、発行された新1万円札の顔となった、埼玉県が誇る、今話題の人物です。1917(大正6)年に著された渋沢栄一の著書「論語と算盤」は、大谷翔平選手を育てた、栗山英樹監督が愛読し、日本ハムファイターズ監督時代には、選手一人一人にこの「論語と算盤」を配って、読むことを進めたという本でも有名です。もちろん大谷翔平選手も読んでいます。この「論語と算盤」に以下のような一説があります。

今の青年たちは、ただ学問のための学問をしている。初めから「これだ」という目的がなく、何となく学問をした結果、実際に社会に出てから、「自分は何のために学問してきたのだろう」というような疑問に襲われる青年が少なくない。底の浅い虚栄心のために学問を修める方法を間違えてしまうと、その青年自身の身の振り方を誤ってしまう。(中略)

一時の成功や失敗という価値観から抜け出して、超然と自立し、正しい行為の道筋に沿って行動し続けるなら、成功や失敗などとはレベルの違う価値ある生涯を送ることができる。

昔に書かれたことですが、現代にも通じることだと思いませんか。また、著書を通して、道徳心と経済的に豊かになることのバランスがとても大切であると訴えています。こうして考えてみると、皆さんは「なぜ学ぶのか」ということをしっかり考え、志をもち、将来に役立つ知識や技能を身に付けるとともに、人格を磨き、コミュニケーション能力を向上させていくことが求められているのではないのでしょうか。

生徒の皆さん、「1年後の自分」「成人式を迎えた自分」「仕事をしている自分」「家庭を持っている自分」など、将来に思いを巡らせつつ、夢に向かって充実した毎日を過ごしてほしいと思います。

地域の皆様、保護者の皆様、今後も本校生徒がこの中学校生活の中で沢山の学びを得られるように、学校と三位一体となり、取り組んでいただきますように、ご理解とご協力をお願いします。